

「三度、死と復活を予告する」

2023年10月05日

イエスは、十二人を呼び寄せて言われた。「今、私たちはエルサレムに上って行く。そして、人の子について預言者が書いたことはみな実現する。人の子は異邦人に引き渡されて、嘲られ、侮辱され、唾をかけられる。彼らは人の子を、鞭打ってから殺す。そして、人の子は三日目に復活する。十二人は、これらのことが何一つ分からなかった。彼らにはこの言葉の意味が隠されていて、イエスの言われたことが理解できなかったのである。

(ルカ18：31～34)

主イエスは、十二人の弟子たちを呼び寄せ、「今、私たちはエルサレムに上って行く」と言われた。過越しの祭に合わせて、エルサレムに上る決意をしておられ、いよいよその時が来たことを知り、弟子たちにこれからエルサレムで起こる主イエスの死と復活について予告された。「人の子について預言者が書いたことはみな実現する。人の子は異邦人に引き渡されて、嘲られ、侮辱され、唾をかけられる。彼らは人の子を、鞭打ってから殺す。そして、人の子は三日目に復活する。」「人の子」は通常は「人間」を指す言葉である。ダニエル書に、「私は夜の幻を見ていた。見よ、『人の子』のような者が / 天の雲に乗って来て / 日の老いたる者のところに着き / その前に導かれた (ダニエル7：13)」とあり、ダニエルは「人の子」は神の全権を受け、支配し、その統治は滅びない幻を見たと言っている。ダニエルが見た幻から、新約聖書においては「人の子」は「メシア」の称号として受け止めるようになった。主イエスがご自身を「人の子」と言われたとは思えないが、著者ルカは、主イエスご自身が「人の子」と言い、メシアとして振舞われたと描いている。ダニエル書の「人の子」は栄光のメシアであるが、主イエスは、人の子である自分はあらん限りの嘲笑を受け、痛みつけられ、殺されて、苦難を負うメシアであると語っている。そして、三日目に復活すると預言者が書いたことも、全て実現すると明言された。

一度目の死と復活の予告は、主イエスが「それでは、あなたがたは私を何者だと言うのか」と問われ、ペトロが「神のメシアです」と答えた後である。ペトロのメシア告白を受けて、人の子は苦しみを受け、神殿当局から排斥されて殺され、三日目に復活すると語られた。二度目は、悪霊につかれた子を癒やされた時、人々は驚き、心を打たれた。その時主イエスは、「この言葉を耳に収めておきなさい。人の子は人々の手に渡されようとしている (ルカ9：44)」と、苦難と死を予告されている。最初、二度目の予告の時も、弟子たちは何のことだか分からなかった。そして、三度目の時も、主イエスの苦難の死と復活について、彼らは何一つ理解することができなかった。それは、当然であろう。弟子たちは、主イエスの慰め深い言葉と驚くべき奇跡の業によって多くの人を救う力に圧倒されていた。その主イエスが、卑しめられ、無残な死を遂げるなど、想像できないことであつた。更に、死んで復活するなど、考えられないことであつた。弟子たちは、何と訳の分からないことを言われるのかと途方に暮れたことだろう。

しかし聖書は、主イエスの十字架の死と、死よりの復活に、人間の罪の赦し、神からの義に与る福音があると告げている。弟子たちは、主イエスの復活を経験して、神の救いの出来事を喜びの中で受け止めた。それは、どんな人も「生きよ」と「生が絶対的に肯定されている」救いであつた。主イエスの十字架と復活を信じる者はインマヌエル、神と共に生きる者とされる。この福音は時代を超えて、真実な救いである。